

や季節労働に従事する人が多いことから、全世帯数の半分が、国保加入世帯になっています。そのため、他の市町村に比べ、村の負担も大きなものとなっています。1昨年9600万円あった基金を取り崩し、来年度には基金残高が5000万円になってしまいます。所得割を1・6引き上げて、資産割は据え置きます。均等割も5000円に引き上げて、健全な国保会計に近づけるためにも、改正を求めます。

●平成22年度一般会計予算

【反対討論】(渡辺俊夫)

新年度予算の人件費は2600万円増となり、予算総額に占める割合は17・7%で昨年比3・6%も上昇しました。

一方、村税収入は全体で前年比4・1%の減額を見込んでいます。個人住民税は6・6%減、法人住民税はなんと12・7%減です。ちなみに、民間の給与は8%減と見込んでいます。給与の増額は、今

の住民の生活実態から掛け離れ、理解できません。また、観光局負担金に関して、観光戦略事業では、観光宣伝事業の新規事業分として新たに3000万円を計上しています。競争が激化している観光市場の中であって、いかに他者との違いを出し存在感を出させるかが今最も大事な課題であり、最も優先して取り組まねばならない事項であると考えます。即ち、今、正に投資すべきは村の「中」にあり「外」ではないのです。

【賛成討論】(横田孝穂)

予算特別委員会においては、これまで村民サービスの向上を目指し、職員数の削減や公債費の縮減など義務的経費の圧縮を進め、また財政基盤の健全化に努め、平成22年度において、

村税徴収率の向上など自主財源確保の取り組みを引き続き強化し、持続可能な財政運営を前提に、限られた予算の中で、必要なものを見極め、無駄を排除する選択が必要であると説明がありました。連日審議した結果、平成22年度一般会計予算は適切であると確

信しました。

●議会会議規則の一部改正

【賛成討論】(渡辺俊夫)

僅か12名の村議会にあって、真に議論の府として住民に信頼される議会を目指すために議会改革の歩みこそ進めるべきであり、正に、後退させるような先の改正、言ってみれば改悪を改正する必要があります。

【反対討論】(田中榮一)

委員長報告にもありましたように、今の議会会議規則が、議員の自由な発言を制限するものとは思いませんし、議会の活性化を損なう内容を持つ会議規則とも思いません。

●平成21年度一般会計補正

予算6号

【反対討論】(渡辺俊夫)

歳入の中に雑収入、弁償金というところで、38万5千円が計上されています。融雪剤に関する弁償金であるということですが、まだ検証すべき事項が残っている状態であり、議会での精査も済んでいない状態での処分は拙速です。

【賛成討論】(太谷正治)

員会の中で、何度もこの金額については説明があり、適正だと思えます。



地域医療を担う安曇総合病院白馬診療所